

電安炉技第8号

令和3年6月17日

原子力規制委員会 殿

所在地 広島県広島市中区小町4番33号

申請者名 中国電力株式会社

代表者 代表取締役社長執行役員 清水希茂

島根原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書

(2号発電用原子炉施設の変更)

本文及び添付書類の一部補正について

平成25年12月25日付け、電安炉技第14号をもって申請（令和3年5月10日付け電安炉技第1号、令和3年6月14日付け電安炉技第7号で一部補正）しました当社、島根原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書（2号発電用原子炉施設の変更）の本文及び添付書類を下記のとおり一部補正いたします。

記

島根原子力発電所発電用原子炉設置変更許可申請書（2号発電用原子炉施設の変更）の本文及び添付書類を別添のとおり補正する。

## 別添

別紙 3（工事計画）の一部補正

添付書類三の一部補正

添付書類六の一部補正

### 別紙 3 (工事計画) の一部補正

別紙3（工事計画）を以下のとおり補正する。

頁	行	補正前	補正後
-1-		工事計画	別紙1に変更する。

なお、頁は、令和3年5月10日付け、電安炉技第1号で一部補正した頁を示す。



添付書類三の一部補正

添付書類三を以下のとおり補正する。

頁	行	補正前	補正後
3-1	上2	…重大事故等対処設備他設置工事_に…	…重大事故等対処設備他設置工事等に…

なお、頁は、令和3年5月10日付け、電安炉技第1号で一部補正した頁を示す。

添付書類六の一部補正



添付書類六を以下のとおり補正する。

頁	行	補正前	補正後
*6-3-6	下5	… <sup>おおふね</sup> <u>大船山</u> …	… <sup>おおふな</sup> <u>大船山</u> …
**6-7-3	上7	… <u>7 km 程度</u> …	… <u>約 7 km</u> …
	下5	… <u>深度 7 km</u> …	… <u>深度約 7 km</u> …
**6-7-2	上3	… <u>深度 7 km</u> …	… <u>深度約 7 km</u> …
*6-7-14	下6	…であり， <u>破局的噴火</u> が…	…であり， <u>原子力発電所の運用期間中に破局的噴火</u> が…
*6-7-15	上4	… <u>深度 7 km</u> …	… <u>深度約 7 km</u> …
	上5	…ではなく， <u>破局的噴火</u> が…	…ではなく， <u>原子力発電所の運用期間中に破局的噴火</u> が…
	上12	…の <u>範囲</u> に集中して…	…の <u>地下深く</u> に集中して…
**6-7-2	上7～上9	… <u>おり，東宮（1997）による珪長質マグマの浮力中立点の深度 7 km よりも</u> …	… <u>いることから，地下浅部に大規模なマグマ溜まりはなく，</u> …
*6-7-15	上13	… <u>深い位置にあることから，破局的噴火</u> が…	… <u>原子力発電所の運用期間中に破局的噴火</u> が…
	下11	… <u>ついては，三好ほか（2005）<sup>(37)</sup>によると</u> …	… <u>ついては，Abe et al.（2010）<sup>(37)</sup>によると，阿蘇カルデラ下の深度 15km～25km の地下深くに低速度層が認められ，マグマ溜まりの存在を示唆するものとされている。また，三好ほか（2005）<sup>(38)</sup>によると</u> …

頁	行	補正前	補正後
*6-7-15	下9 下9～下7	… <u>されている。</u>  また <u>Abe et al. (2010)<sup>(38)</sup>によると、阿蘇カルデラ下の深度 15km～25km の範囲に低速度層が認められ、マグマ溜まりの存在を示唆するものとされている…</u>	… <u>されていることから、</u>  (記載削除)
**6-7-2	下8～下6	… <u>が、東宮 (1997) による珪長質マグマの浮力中立点の深度 7 km よりも…</u>	(記載削除)
*6-7-15	下6	… <u>よりも深い位置にあることから、原子力発電所の…</u>	… <u>原子力発電所の…</u>
*6-7-21	下10～下8	(37) <u>三好雅也・長谷中利昭・佐野貴司 (2005) : 阿蘇カルデラ形成後に活動した多様なマグマとそれらの成因関係について、火山第 50 巻 第 5 号, (p. 269 - 283)</u>	(37) <u>Abe. Y・Ohkura. T・Shibutani. T・Hirahara. K・Kato. M (2010) : Crustal structure beneath Aso Caldera, Southwest Japan, as derived from receiver function analysis, Journal of Volcanology and Geothermal Research, Vol. 195, (p. 1 - 12)</u>

頁	行	補正前	補正後
	下7～下4	(38) <u>Abe. Y・Ohkura. T・Shibutani. T・Hirahara. K・Kato. M (2010) : Crustal structure beneath Aso Caldera, Southwest Japan, as derived from receiver function analysis, Journal of Volcanology and Geothermal Research, Vol. 195, (p. 1 - 12)</u>	(38) <u>三好雅也・長谷中利昭・佐野貴司 (2005) : 阿蘇カルデラ形成後に活動した多様なマグマとそれらの成因関係について, 火山第50巻 第5号, (p. 269 - 283)</u>

なお、\*を示した頁は、令和3年5月10日付け、電安炉技第1号で一部補正した頁を、\*\*を付した頁は、令和3年6月14日付け、電安炉技第7号で一部補正した頁を示す。